

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

# 無盡燈

2005年3月  
No.123



大谷大学同窓会

## 大谷大学と私

# 「谷大の思い出」

目下部有信先生にインタビュー



本学において、四十年にわたり教鞭をおとりいただきました目下部有信先生にお話を伺いました。

**先生が自然科学を志されたきっかけをお聞かせください。**  
小学生の頃から虫取りが好きでした。銀閣寺の近くに住んでいた時は、近くの大文字山へ出かけましたし、小学校三年生の頃に育英学寮の近くに移ってからは、下鴨神社にある糺の森や御所にかけて虫取りをしていました。ちょうど小学校高学年から中学生の頃が第二次世界大戦で、ほとんど食糧もなくなってきたり、小学校高学年の頃は、家の前の花壇を全部畑にして、いろいろな野菜を

作っていました。そういうことから植物が育つのが面白いと思うようになって、植物にも興味をもつようになりました。

中学生の頃からは昆虫採集をする一方で、植物にも興味をもつて植物採集もするようになりました。いろいろな珍しい昆虫を採集したり、植物を採集するために北山や比良山系、鈴鹿などいろいろなところに出かけました。

新制高校に移行してからも、植物にも動物にも興味があったのですが、大学では結局植物を選びました。ちょうどその頃に生態学が流行ってきたんです。生態学は二十世紀になつてから生まれた学問で、形が整い出したのは一九三五年頃なんです。大学では、動物、植物それぞれに生態学は結構若手が育っていました。植物では、植物生態学の助教がおられました。生態学は主流から外れていたのですが、私はたった一人、植物生態学を選びました。

最初は高等植物を対象に研究をし

ていました。ところが、私が京大の附属植物園で研究していてもうまくいかないわけですよ。何が難しいかと言いますと、植物が茂りますと、茂った葉っぱの下では、温度・照度・湿度といったものが上と違うわけですね。微細気候を測らないと、何が原因でそういうことになるのかということが分からないのです。それで、これでは論文がまとまらないということで、修士課程の二年目から方針転換しまして、水の中のものを研究することにしました。水の中というのは、明るさこそ変わっても、微細気候というものはないですからね。藻類を対象に、どのような水でどのようなものが育つのかということとを研究し始めたわけです。それが、これまでずっと川と湖で藻類を中心に、どのような環境でどのような仲間がどのような社会をつくっているかということとを調べることの出発点でした。修士論文も「池の藻類」でした。

**先生が大谷大学に着任される前は、近畿大学や神戸医科大学に勤めておられたのですか。**

近畿大学へは、新設された水産学科で「水産植物学」を担当して欲しいということで勤めたのです。講義と学生実習はできたのですが、当時私は藻類の培養をして、それが育つ環境条件を調べようとしていました。ところが新設学科のために器材が揃

わなくて困っていたのです。その頃たまたま、神戸医科大学の組織学の教室で助手を求めているという話を聞き、「私は藻類の培養の研究をしたいのですが」という話をしたら、「培養もできますよ」ということで、いろいろな施設もありましたので、神戸医科大学に移りました。その後、神戸医科大学は神戸大学医学部になりました。

一九六五年頃、大谷大学で幼児教育科を新設するために「自然」という科目を担当する教員を探していると、私の大学の恩師である教授を通して声をかけていただきました。神戸までの片道二時間以上の道のりがつらかったのと、野外のフィールドワークが好きなのが医学部にも、結局は自分のやりたいことができないなと思って、一九六六年、大谷大学短期大学部に幼児教育科ができるのと同時に着任しました。そして、大谷では、それまでとは違って、研究上の束縛がなくなりました。ですから、自分が今までやるうと思つていたことが思うようにできたので、本当にありがたかったですね。

**その頃の研究はご自宅でされていたのでしょうか？**

自宅と大学の両方ですね。当時、自然科学研究室は一号館三階の南東のかどにありました。熊谷直一先生と同じ部屋でしたが、私一人の部屋みたいな感じで使っていました。だ



から部屋は広いし、すぐに顕微鏡と遠心分離機は買ってもらえたし、いつ何をしていようと誰にも何も言われないから、本当によかったです。私はもうこの大学にずっといようと、この大学からはかわらないぞと思いましたが、着任してみると、勤行があつて、講話も担当しました。でも、勤行に出るといのは自由だし、それから講話でも別に仏教に関係なくてもいいということで、自分の話をさせてもらいました。そういう点で私は大谷大学に「古き良き大学」というイメージをもっていましたね。

**自然科学を大谷大学という文科系大学で教えられるうえで、ご苦労されたことはございましたでしょうか。**

私は、文系の学生だから理科には興味がないというふうには言い切れないと思つています。持つて行きようによつていくらでも興味が出てくるし、学生自身も文系の学生というひとつの枠の中に入るのはではなくて、いろいろなきことに興味をもつて、いろいろと知識を身につけて欲しいと思います。今担当している「環境科学」で、海の生態系についての話をしました。海も、川も、森も、すべて人間によつて変えられてきているわけですね。それを実際に興味をもつて自分の問題として見てもらいたいです。また、「生命体と進化」ではDNAの話をしています。これも生命を考える上で大切な知識で

す。「文系だから理科は嫌」というのではなくて、いろいろなきことに興味をもつて欲しいし、特に環境や生命のことはすべての人間の問題として知って欲しいことですね。

**先生の授業が楽しかったという卒業生や在学生は多いですね。**

幼児教育科の授業について言いますと、私は幼児教育科で長く、「自然」を教えていたんです。自分の経験から「自然」というのは、教室の中で黒板に書いてあるだけでは分からないし、面白くもないですね。カリキコラムにはなかつたけれども、夏休みに山や川へ実習に連れて行つたりしてました。そしたら、「あれがとてよかつた」という卒業生が多いですね。幼児教育科というのは特に保育の中に、「自然（環境）」というのがありますので、余計にそうなんですけれど、実際の自然に接してそこから学んでいくということが大事だと思います。私自身も、大学の時にどの先生がどんな話をしたかほとんど忘れてしまつていても、臨湖実習といつて琵琶湖に行く実習や山へ行く実習などはその内容をとてもよく覚えてるんです。そこで体験したことはいつまでも忘れないんです。だからそれは大事なことだと思ひましたね。

**先生が今後、大谷大学や学生に望まれることをお聞かせください。**

漠然としたことなんですけれども、私は大谷大学が好きなんです。三十年、非常勤を含めると四十年間も勤めさせていただいて、場所も非常にいいですね、これからは益々発展していくが、大学の設備とかだけではなく、学生にも質的によくなつて欲しい。「これから益々よくなつて欲しい大学」、そういう気持ちです。私の第二の母校ですからね。いろいろな研究をしたり、学生と接しながら、私の人生の一番大事な三十代から六十代を過ごしたところですからね。しかも、いろいろ不満があつて過ごしたのではなくて、私は非常に楽しく、そしてありがたいと思ひながら過ごしたんですよ。

## 美しい比叡と自由な研究室

石川 祐顯

先生のこと。それはハーレーダビッドソン、トヨタのクラウン、スバルのサンバ、そして和顔愛語のお姿です。

一号館三階の研究室は、毎日常連の学生十数人が出入りし、先生のご研究の場ではなかつたのです。けれども、先生はいつも笑顔でられました。よく、「チ

### 日下部先生へのコメント



いしかわ ゆけけん  
S46.3 文学部卒業  
日本仏教史

ヨット」と仰つて、室のキーを預けて外出なさる。きつと、別の静かな所で、ご研究なさつておられたに違ひない。今になつて気がついても間に合いません。本当に、ご迷惑をかけてしまいました。

初めてお会いしたのは、二回生の時友人が連れて行つてくれた。東の窓から美しい比叡が見えた。翌年先生の講義を聴講。「これを蟹のフンドシと言います」という一説だけは今でも覚えてる。研究室では先生手造りの大徳寺納豆で、全教室中を臭くしたこともありましたね。懐かしく思い出します。

〔略歴〕	
昭和六年	京都府に生まれる
昭和三十年	京都大学理学部植物学科卒業
昭和三十一年	京都大学大学院理学研究科（植物学専攻）修士課程修了
昭和三十五年	同博士課程満期退学
同	近畿大学助手
昭和三十六年	神戸医科大学助手
昭和三十九年	神戸大学医学部助手
昭和四十一年	大谷大学専任講師
昭和四十三年	大谷大学助教授
昭和五十一年	大谷大学教授
平成八年	大谷大学退職
現在	大谷大学名誉教授
〔学位〕	京都大学理学博士
〔専攻〕	生態学
〔研究〕	河川・湖沼の生物（とくに藻類）の生態学的研究



# 本部報告



## 第九回大谷大学同窓会 ホームカミングデー開催報告

同窓会恒例の「ホームカミングデー」を第一〇四回紫明祭期間中の十一月十三日(土)に開催いたしました。九回目を数える今回は、名誉教授の先生方をはじめ、退職された先生方や専任教員のご出席のもと、全国より同窓生やそのご家族など約一五〇名の参加がありました。



スタンブラリー

第一部「谷大再発見」では、博覧館第一会議室をメイン会場に、参加者が久しぶりに再会した恩師や旧友となごやかに懇談されたほか、新企画「スタンブラリー」に参加され



プレイルーム

様変わりした母校のキャンパスを散策されました。また、学内を散策される際、配付された「学園祭バザー利用券」を利用し、バザーに参加しながら在学生と交流しておられました。さらに、第一部の後半には「お楽しみ抽選会」が行われ、当選された参加者に全国の各支部よりご提供いただいた特産物が贈られました。その後、京都ロイヤルホテルに会場を移し、第一部「懇親会」が開催され、和やかな雰囲気の中が盛會裡に終了いたしました。



メイン会場での懇談



お楽しみ抽選会の景品

### 「お楽しみ抽選会」景品一覧

品名	数量	提供者
缶ビール	1	伊知地鑑照 常務理事(山城支部)
食用油	1	
銘菓「春日山」	10	二階堂行邦 常務理事(東京支部)
銘酒「御代茶」	1	沙加戸 明 理事(湖南支部)
銘酒「杉玉」	1	
銘酒「陸奥男山」	1	竹園 関 理事・青森支部長
銘酒「寒立馬」	1	
八丁田菜みそ	5	本田 昭英 理事(三為会支部)
ジャガイモ	1	吉田 法純 理事(札幌支部)
銘酒「久保田」萬寿	2	北原 了義 監事(三糸支部)
かぼちゃ焼酎「オニウシ」2本セット	6	三浦 祐伸 函館支部長
北一硝子 ワイングラス	1	河合 芳邦 小樽支部長
元祖・地獄ラーメン	1	曹我 皆達 札幌支部長
有機米	2	竹内 亮子 砂川支部長
ジャガイモ・玉ねぎ(無農薬)	1	
銘菓「マルセイバターサンド」・ラーメンセット	1	
銘菓「六花亭チョコレート」・ラーメンセット	1	
銘菓「六花亭 白い恋人」・ラーメンセット	1	黒川 俊樹 芦別支部長
銘菓「北菓楼 クッキー」・ラーメンセット	1	
ぶらのワイン	1	
藍染めテーブルセンター	1	狐野 利久 室蘭支部長
銘酒「国権」	2	松岡 満雄 深川支部長
銘酒「杉玉」	2	岩城 知行 旭川支部長
ハム・ソーセージ詰め合わせ	1	鳥宮 慶法 十勝支部長
銘菓「丹頂鶴の卵」	8	朝日 英明 網走支部長
長手焼酎・チーズ詰め合わせ	2	三林 晋 網走支部長
リンゴ	2	林 正文 岩手支部長
銘酒「浦霞禪」	5	関口 秀和 宮城支部長
会津みらしず柿	2	片岡 英信 福島支部長
銘菓「東雲羊羹」・敷布・綿毛布セット	1	山崎 伝成 秋田支部長
浅草半平「牛肉しぐれ煮」	5	松下 昇建 東京支部長
銘酒「立山」2本セット	5	石川 正生 富山支部長
こも樽酒「加賀鶴」	12	木越 涉 金沢支部長
銘菓「大豆あめ」	2	亀瀬 了映 能登支部長
横山ワイン2本セット	1	栗原 宣如 山梨支部長
写真立て・写真 富士山1葉、東本願寺3葉	1	曹我 祐賢 静岡支部長
銘酒「蓬萊泉」美・和・可3本セット	4	大首 祖瑛 三為会支部長
万古焼 急須・湯呑セット	1	荒木 智榮 三重支部長
銘菓「柿羊羹」2本セット	2	佐々木舜峰 大垣支部長
民芸品「さほほ」・銘酒「鬼ごろし」セット	1	小原 正憲 飛騨支部長
銘菓「南龍梅」	2	木村 毅 福井支部長
梅干「南龍梅」	3	鈴木 教雄 和歌山支部長
備前焼 花器	3	發知 正美 岡山支部長
和菓子詰め合わせ	2	澤木 憲祐 福山支部長
讃岐うどん「かな泉」	3	藤井 秀昭 四国支部長
八女茶	1	木屋 行範 久留米支部長

## 二〇〇四年度前期 卒業・修了ならびに 同窓会新入会員歓迎祝賀会

二〇〇四年度前期大谷大学・同大学院・大谷大学短期大学の卒業証書並びに学位記授与式が九月三十日（木）に挙行され、式典終了後、本学多目的ホールを会場に「大谷大学卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催されました。

この祝賀会は、学業を修め、新たに同窓会に入会される卒業・修了生を大学と同窓会をあげてお祝いし、社会人となられた後も、同窓会員として母校に心をかけていただきたいという願いを込めて、毎年二回、卒業証書並びに学位記授与式当日に開催されているものです。

当日は、木村宣彰学長・佐々木教悟同窓会長の祝辞の後、同窓会理事長の若槻俊秀教授による乾杯の発声で祝宴が始まり、出席された卒業・修了生は、恩師、そして友だちと和やかなひと時を過ごされました。

二〇〇五年度

同窓会総会のご案内

開催日 二〇〇五年五月十六日（月）  
時間 午後一時～

（総会終了後、懇親会）

## 同窓会うどんの 販売について

本会報前号でご報告いたしました「同窓会うどん」は、在学生に大変好評を博しています。

一日の平均販売数は二二〇食を超え、最も多い日には三五〇食が販売されました。月別の販売数は左のとおりです。

同窓会うどん 月別販売数

	2004年 7月	2004年 8月	2004年 9月	2004年 10月	2004年 11月	2004年 12月	2005年 1月	合計
合計	5,519	191	2,526	4,713	4,224	4,113	3,499	24,785
平均	262.8	95.5	132.9	248.1	234.7	241.9	233.3	223.3
営業 日数	21	2	19	19	18	17	15	111

（大谷大学学内食堂）

## 災害お見舞い申しあげます

昨年全国各地を襲った台風、また一〇月に発生した新潟県中越地震により被害にあわれました関係各位に對しまして、衷心よりお見舞い申しあげます。

## 支部長・事務局の交替・ご紹介

ありがとうございました  
よろしくお願ひいたします

### 三条支部

支部長 鈴木 順丸

（前支部長 佐々木祐玄）

### 阪神支部

支部長 春日 興良

（前支部長 寺林 中）

### 長崎支部

支部長 田中 顕昭

（前支部長 大村 昭）

### 上越支部

事務局 源 了惠

（前事務局 宮戸 弘）

## 同窓会ホームページについて

同窓会では、2001年1月より同窓会ホームページ「無盡燈」を公開しています。

これまで毎月1日に内容を更新し、現在のアクセス件数は24,000件を超えています。

メニューは、「ご挨拶」「真宗総合学術センター響流館情報」「同窓会情報」「支部情報」「セミナー情報」「無盡燈ギャラリー」「リンク集」などです。また、同窓会報『無盡燈』もホームページでご覧いただけます。

ぜひ一度、同窓会ホームページ「無盡燈」にアクセスしてください。

ホームページアドレス

<http://www.mujinto-otani.org/>



同窓会報『無盡燈』および  
同窓会ホームページについて  
ご意見をお寄せください。

前号より同窓会員の皆さんに、同窓会報『無盡燈』および同窓会ホームページ「無盡燈」に関するご意見・ご感想をお寄せいただくための八ガキを同封しております。

また、ご夫婦、親子など複数の同窓会の方が同居しておられ、複数の会報の送付が必要でない方は、お知らせください。

今後の同窓会報およびホームページをよりよいものにするために、ぜひご意見・ご感想をお寄せください。



同窓会海外研修 第九弾  
「世界遺産 アンコール遺跡・  
ポロブドゥール遺跡研修の旅」  
実施報告

同窓会では、本年一月六日(木)十三日(木)の八日間にわたり、海外研修第九弾「世界遺産 アンコール遺跡・ポロブドゥール遺跡研修の旅」を実施いたしました。今回は、吉元信行教授(仏教学)に団長をお願いし、各地の同窓会員ならびに有縁の方々総勢二十名の参加がありました。

八日間でカンボジア、タイ、インドネシアの三カ国を訪れるとても忙しい研修旅行となりましたが、参加者は二カ所の有名な世界遺産をはじめとする数々の壮大な遺跡を目の当たりにして、感激されていました。



アンコール・ワットにて

世界遺産アンコール遺跡・ポロブドゥール遺跡研修の旅に参加して

安部 英憲  
(一九八七年修士課程修了・真宗学専攻)

世界遺産であるアンコール遺跡群、ポロブドゥール遺跡を訪れる今回の旅。吉元信行先生の御指導のもと、カンボジア、タイ、インドネシアの三カ国を訪れました。

大乘仏教やヒンドゥー教の影響を大きく受け、九〜十二世紀に建設されたアンコール遺跡群。その中でも、アンコール・ワットの壮大な伽藍や華麗なレリーフ、アンコール・トムのパイヨン寺院にある観音菩薩の四面仏塔に圧倒されました。また、タ・プローム遺跡では、大木が遺跡に絡みつく様子が、自然の力強さと遺跡保存の難しさを感じました。



ポロブドゥール遺跡



ポロブドゥール遺跡にて勤行

アンコールより古く、八〜九世紀に建設されたポロブドゥール遺跡は、初転法輪までの伝、ジャータカ、華嚴經の善財童子のレリーフが完全な形で残り、吉元先生のお話にありましたように、まさに「大乘仏教の文化の華」でした。無色界を表現しているといわれる最上部で勤行をして、周囲を見渡すと、赤道近くのジャワ島の風景がどこか懐かしく感じられました。

タイでは、アンコール・ワットの模型のある王室ゆかりのワット・プラケオ、寝釈迦仏のワット・ポーなどの寺院を訪れ、熱心に参拝する多

くの人々の姿に接し、上座部仏教の生きた有様を目の当たりにしました。インドの文化が、これらの三カ国に与えた影響はとも大きく、その後には歩んだ歴史を照らし合わせると、平和の大切さを改めて感じます。

八日間で飛行機に九回乗るといって忙しい日程でしたが、アンコール・ワットの朝日、朝日に輝くポロブドゥールなどの景色に癒され、充実した楽しい旅となりました。団長の吉元先生、同行された同窓会本部の中島さん、モントトラベルの四ツ井さんに深く感謝申し上げます。

出発直前に起きたスマトラ島沖地震。今回の日程に影響はありませんでしたが、甚大な被害に人間の無力さを痛感します。被災された皆様に衷心よりお見舞い申し上げ、被災地の一日も早い復興を願っています。



ワット・アルンにて(後列左端が筆者)

母校の動き (2004年9月~2005年3月)

- 9/ 7(火)~25(土) 宗教シンポジウム テーマ「人間になる」ということ」  
【写真展 慈悲の足跡 インドの仏教遺跡と芸術遺産】 基調講演 芹沢 俊介氏(評論家)  
【博物館2004年度秋季企画展】 ロバート F.ローズ 本学教授  
「仏教の歴史とアジアの文化」 13(土)プロコンサート ゲスト 光永 亮太氏  
9/25(土)【教育後援会近畿地区父母兄姉懇談会】 14(日)後夜祭  
9/28(火)【宗祖御命日勤行・講話】 11/19(金)~21日(日)  
「病は、善知識なり。」私考 佐々木令信 本学教授 【公募制推薦入試】  
9/30(木)【前期卒業証書並びに学位記授与式】 11/26(金)【大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要・記念講演】  
【前期卒業・修了ならびに同窓会新入会員歓迎祝賀会】 「中夏地域の仏教」 藤島 建樹 本学名誉教授  
10/ 8(金)【2004年度大学院特別セミナー 公開講演会】 12/ 1(水)【“人権問題を共に考えよう”全学学習会】  
「説教者の創意工夫を探る」 「小さな手のひらコンサート」 ソプラノ歌手 渡辺千賀子氏  
ハルトムート・O・ロータモンド フランス国立高等研究院教授 ギター伴奏 井草 誠氏  
本学客員教授  
【大学院社会人入試】  
10/ 8(金)~9(土) 【教育後援会北陸地区父母兄姉懇談会】  
【大学院修士課程秋季試験】 12/ 4(土)【同窓会北陸地区支部長会】  
10/ 9(土)【文学部第3学年推薦編入学選考[前期日程]】 12/ 7(火)【仏教学会公開講演会】  
10/12(火)~11/28(日) 「ガンダーラ美術と大乗仏教」 宮治 昭 名古屋大学教授  
【博物館2004年度特別展】 12/ 7(火)~25(土)  
「京の文化人とその遺産 神田家の系譜と蔵書」 【博物館2004年度冬季企画展】  
10/13(水)【開学記念式典・記念講演並びに初代学長清沢満之謝徳法要】 「京都を学ぶ 谷邊橋南の書のことろ」  
「21世紀における高等教育の課題 何を、どう学ぶべきか」 【紫明近隣 昔の写真展】  
佐々木 毅 東京大学総長 12/11(土)【外国人留学生入試】  
10/19(火)【大谷学会秋季研究発表例会】 【文学部第3学年推薦編入学選考[後期日程]】  
「菅音源のデジタル化:北里蝸管を中心に」 山本 貴子 本学助教教授  
「正統バラモン思想とは何か」 山本 和彦 本学助教教授  
「元初の法会について - 石刻史料を手がかりに -」 桂華 淳祥 本学助教教授  
皇 紀夫 本学教授  
10/28(木)【宗祖御命日勤行・講話】 「臨床教育学の 実際」  
11/ 8(土)~7(日) 「中国の出版文化 明万曆期を一例に」 佐藤 義寛 本学教授  
【指定校制推薦入学制度】  
11/13(土)【第9回同窓会ホームカミングデー】  
11/11(木)~14(日) 【第104回 紫明祭】  
11(木)園遊会 ゲスト gulf・CHABA  
12(金)講演会 講師 松木安太郎 元東京ヴェルディ監督

大谷大学博物館 2005年度開館予定

春季企画展

「大谷大学のあゆみ」

4月5日(火)~4月23日(土)

夏季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化」

前期:5月24日(火)~6月25日(土)

後期:7月1日(金)~8月2日(火)

秋季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化」

9月6日(火)~9月24日(土)

2005年度特別展

10月11日(火)~11月28日(月)

冬季企画展

「京都を学ぶ」

12月6日(火)~12月24日(土)

企画展、特別展とも原則として、月曜日・日曜日・祝日は閉館日です。日程等の詳細につきましては、大谷大学博物館へご確認ください。

連絡先 TEL.075 411 8483 (直通)

依願退職

人事

「教育職員」

須藤 訓任(教授・文学部)  
二〇〇四年九月三十日付

「事務系嘱託」

村尾しのぶ(企画室)  
二〇〇四年六月三十日付

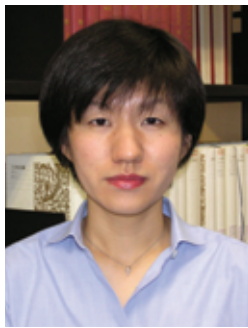
「事務系嘱託」

通事 祐子(教育研究支援部)  
二〇〇四年十二月三十一日付

「新規採用」

大谷のり子(企画室)  
二〇〇四年九月一日付

母校だより



仁木夏実さん

二〇〇四年九月、本学任期制助手である仁木夏実さんが、大阪大学から学位論文「院政期漢詩文の研究」により、博士（文学）の学位を取得されました。

**任期制助手 仁木夏実さんが、  
博士（文学）の学位を取得**



米本義孝教授

二〇〇四年九月、本学の米本義孝教授が、立命館大学から、学位論文「言葉の芸術家 ジェイムズ・ジョイス 『ダブリンの人びと』 研究」により、博士（文学）の学位を取得されました。立命館大学英文科としては論文博士第一号です。

**米本義孝教授が、  
博士（文学）の学位を取得**

このたびは和書六千八百七冊、洋書三千九百冊、線装本四三三部を収めましたし公開するものです。

このたび図書館では、京都大学名誉教授・元大谷大学教授であられた故西谷啓治先生の旧蔵書を収めた西谷文庫の目録を刊行しました。

**『西谷文庫目録』 刊行**



鈴木昭英さん

このたび、次の一名の方が、学位論文を提出され、博士（文学）の学位を取得されました。  
授与式は、本年一月二十八日（金）本学にて行われました。  
鈴木昭英 元・長岡市教育委員会 参事兼長岡市立科学博物館長  
「修験教団の形成と展開」  
（教務部）

**同窓生の鈴木昭英さんが、  
博士（文学）の学位を取得**



懇談会の様子

**同窓高校教員懇談会開催**

西谷文庫の蔵書は、刊行した冊子目録、CD ROMのほか、大学HPの「図書館・情報検索」からも検索可能です。（図書・博物館課）



『西谷文庫目録』 左：和書の部 右：洋書の部

九月七日より二十五日まで響流館一階ギャラリーにて、写真展「慈悲の足跡」が開催されました。  
これは本学・インド大使館・インド総領事館との共同主催で行われ、七日のオープニングセレモニーでは、M・L・トリパティ駐日インド大使、R・O・ワラン在大阪・神戸イ

**インド写真展 慈悲の足跡 開催**

去る八月二十日に同窓高校教員懇談会を、博綜館第二会議室において開催いたしました。この会は、本学を卒業し、現在高等学校で教鞭を取っておられる先生方から、高等学校の現状をお話しいただくとともに、母校である本学の今後のあり方を共に考え、連携をより緊密なものとしていくことを目的にして開催しています。  
昨年度は台風のため残念ながら中止となりましたが、今年度は十三名の先生方をお迎えして開催することができました。  
懇談会では大谷大学の入学制度や学生募集のあり方など、今後の本学の方向を見定めていくうえで、貴重なご意見を多数いただくことができました。  
今後も毎年開催し、より有意義な関係を築いていきたいと考えています。（入学センター）





オープニングセレモニー

インド総領事ご臨席のもと、木村学長から、過去のインド著名人の来学の様子や毎年行われているインド研修について触れながら、開式の挨拶をいただきました。

この展覧では、インドで有名な美術史・写真家であるビノイ・K・パール氏が撮影したインドおよび周辺諸国の仏教遺跡・美術遺産の写真八十三点を展示しました。特に石窟に描かれた壁画の写真是、人工光を使用せず、卓越した長時間露出の撮影技法を用い、繊細な色彩を鮮明に切り取り、いにしへの画家達の微妙な筆遣いまで表現しています。

会期中、連日多くの方々にご来場いただき、パール氏が開催にあたって寄せられたメッセージである「慈悲の教えを日・印両国の国民が共有し、大切にしてほしい」との願いを多くの方々分かち合うことが出来ました。(企画室)

**第一〇三回開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要を挙**

十月十三日(水)、第一〇三回開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要が挙行されました。

十月十三日を開学の日とするのは、近代の大学として出発した一九〇一(明治三十四)年の開校式が挙行された日によります。

式典は讃歌、法要に続いて、永年勤続者の表彰並びに大谷大学育英奨学生等の証書授与と記念講演が執り行われました。

今年勤続三十年を迎えられ、永年勤続者の表彰を受けた職員は八名でした。教育職員の佐々木令信・鈴木幹雄両教授及び禿憲仁助教並びに事務職員の今村節子・宇津木秀司・e正導・禿義裕・松原文孝の各幹事に表彰状と記念品が贈られました。

引き続き、東京大学総長 佐々木毅氏より、「二十一世紀における高等教育の課題 何を、どう学ぶべきか」と題して講演をいただきました。佐々木氏は、現在の高等教育は専門分野の細分化が進んだ結果、相互交流のない閉塞化した状況にあるとお話になりました。そしてこれからの大学は、文系理系を問わず各専門をつなぐコミュニケーション力が

必要であり、その力をもって社会にメッセージを発していくことが大切であると指摘くださいました。

「宗教学校」として出発した大谷大学が、またそこで学ぶ私たちが、自らの学びをどのように社会に公開していくべきなのか、改めて問われるお話でした。(総務課)



佐々木 毅 東京大学総長

**全国高校生「人間が大好きです！」表現コンテスト表彰式**

十一月十四日(日)に響流館メディアホールにおいて、「全国高校生『人間が大好きです！』表現コンテスト」表彰式が行われました。

本学では、今年度より文化庁・京都府教育委員会・京都市教育委員会・京都新聞社の後援を得て、当コンテストを実施しました。より幅広い層の高校生を対象として映像・ホームページ作品による「マルチメディア

イア甲子園」としての場を提供しようと発展させたのがこのコンテストです。「人とのつながり・お互いを大切と思える心」を考え、その瞬間・イメージをまとめた作品が寄せられました。

今年は、近畿・東海圏を中心に二十七点が出展され、厳正な審査の結果、初代グランプリにはホームページ部門に個人で参加された長島里奈さんが選ばれました。

表彰式では、木村学長、審査委員長の佐々木令信教授、ゲスト審査員として、映像に造詣の深い谷口キヨコさん、ご自分でもホームページを創作なさっているクリステル・チアリさんの他、共催のKBS京都の役員も来場され講評をいただきました。本学では、今後もあらゆる方面から未来を担う若人の文化活動を支援して参ります。(企画室)



グランプリ表彰の様子

第四十八回 全日本大学空手道選手権大会に空手道部女子出場



日本武道館にて

十一月二十三日（火）、日本武道館にて全日本大学空手道選手権大会（団体戦）が開催されました。

本学空手道部女子が出場し、文学部仏教学科第一学年の田尻和岐江さんが、右中段逆突き、右中段逆突きの攻撃で二ポイントを獲得し、一回戦において勝利しました。

本学空手道部は、流派は松涛館流、会派は本学のOBを中心に組織した日本空手道連合会大涛会で、年二回の審査（昇段、昇級）があり、現在女子は、岡Gさん、松尾さん、今出さん、地紙さん、田尻さんの五名で活動しています。

今回、勝利した田尻さんは、「試合前に、先輩たちと話をして、緊張をほぐしました。試合の二分間は集

中していたので、あつという間でした。大きな舞台で勝ったことで、これからも空手をずっと続けていきたいと思いましたが」と、力強く語ってくれました。空手道部女子部員が空手を始めたきっかけは、さまざまですが、みな「押忍！」と礼儀と気合に満ちた声が響く道場で、いきいきと練習に励む様子が印象的でした。

（企画室）

大学報恩講の厳修

十一月二十六日（金）午前十時より講堂において、学外、学内から多数参集のもと、大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要が挙行されました。

宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂で、学長の調声により『正信偈』を全員で唱和して報恩講を厳修した後、引き続き歴代講師謝徳法要に移り、『阿弥陀経』の読経のなか、来賓はじめ教職員、学生の代表がそれぞれ焼香を行いました。

法要の後、「中夏日域の仏教」と題して本学名誉教授である藤島建樹先生の記念講演が行われました。親鸞聖人の書かれた『正信偈』には「中夏日域の高僧」という一文があります。これは聖人の導きとなつた中国と日本の祖師を讃えた言葉です。先生は、この言葉に依りながら

仏教伝来の歴史をお話してくださいました。その中で、仏教と中国思想との緊密関係や、国家による宗教統制など、仏教が中国において受容される際に起こった様々な出来事を明らかにしてくださいました。幾多の困難な状況を経て果たされた、祖師たちの仕事を讃える聖人の眼差しを思いながら聞かせていただきました。

（総務課）



藤島建樹 名誉教授

『紫明近隣 昔の写真展』開催！

十二月七日～二十五日の期間、響流館一階ギャラリーにて「紫明近隣 昔の写真展」が開催されました。

この写真展は京都市より後援を得て、「大学近辺の環境の変化を振り返る機会を近隣の皆様とともに持ち

たい」という大谷大学の願いから、主催したものです。市民の皆様より提供いただいた写真をもとに、北大路商店街や学校など六ブロックから構成され、合計一六〇点あまりの写真が展示されました。

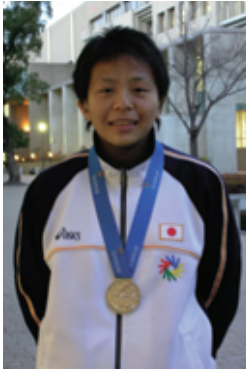
会場では学生時代を懐かしむ先生たちや学生、近隣の方々が気さくに意見を交換しあい、交流を深める様子が見られました。

来場者の一人は「この写真展を機に、この地域の歴史や文化に関心を持ってもらい、交流が増えることで街が活性化されれば嬉しいですね」と語っていました。

（企画室）



写真展の様子



鈴木恵子さん

また、この活躍に対し、京都府知事から京都府スポーツ賞優秀賞が、京都市長から京都市スポーツ栄誉賞が贈られました。(企画室)

本学卒業生がデフリンピック  
女子バレーボールで銀メダル獲得！

本学文学部社会科学卒業生の鈴木恵子さんが、本年一月にオーストラリア・メルボルンで開かれた第二十回デフリンピック夏季大会に女子バレーボール日本代表チームの主将を務め、銀メダルを獲得されました。デフリンピックとは聴覚障害者のオリムピックで、今大会には六十六カ国から約三千六百名が集いました。女子バレーボールには六カ国が出場し、日本代表は決勝で惜しくもウクライナ代表に敗れたものの、見事二大会連続のメダルを獲得しました。鈴木さんは、決勝で敗れた悔しさをバネに、「二〇〇九年台湾大会での金メダル獲得が目標です」と力強く語ってくれました。

二〇〇四年度秋季課外活動結果

【団体成績】

サッカー部

関西学生サッカー連盟秋季リーグ

部Bブロック

五勝二敗一分 四位

硬式野球部

京滋大学野球連盟秋季リーグ戦

部 五勝七敗 四位

ソフトテニス部(男子)

関西学生ソフトテニス連盟

秋季リーグ戦 部Cクラス

二勝一敗 優勝 部Bクラス昇格

ソフトテニス部(女子)

関西学生ソフトテニス連盟

秋季リーグ戦 部Dクラス

三勝 優勝 部Cクラス昇格

バスケットボール部(男子)

関西学生バスケットボール連盟

秋季リーグ戦 部

七勝八敗 九位

バレーボール部(男子)

関西学生バレーボール連盟

秋季リーグ戦 部

六勝一敗 優勝 部昇格

バレーボール部(女子)

関西学生バレーボール連盟

秋季リーグ戦 部

四勝三敗 五位

バドミントン部(男子)

関西学生バドミントン連盟

秋季リーグ戦 部Cブロック

四勝 一位

順位決定戦 一敗 部残留

バドミントン部(女子)

関西学生バドミントン連盟

秋季リーグ戦 部Aブロック

五勝 一位

順位決定戦 一敗 部残留

卓球部(男子)

関西学生卓球連盟秋季リーグ戦

部Bリーグ 四勝 一位

優勝決定戦 一勝一敗 優勝

入れ替え戦 一敗 部残留

卓球部(女子)

関西学生卓球連盟秋季リーグ戦

部Aリーグ 二勝二敗 三位

ラクロス部

関西学生ラクロスリーグ戦

部Dブロック 二勝一敗 二位

アメリカンフットボール同好会

関西学生アメリカンフットボール

連盟 秋季リーグ戦

部Eブロック 四敗 五位

【個人成績】

硬式野球部

京滋大学野球連盟秋季リーグ戦

部打撃ベストテン 第四位

部ベストナイン 外野手

辻井 吉祥

(文学部真宗学科 第二学年)

部打撃ベストテン 第七位

部ベストナイン 外野手

井上陽次郎

(文学部人文情報学科 第三学年)

部打撃ベストテン 第八位

奥野 正晴

(文学部史学科 第三学年)

f 拳道部

関西f拳道親善大会

男子フライン級 優勝

林 俊

(文学部人文情報学科 第三学年)

バドミントン部

京都学生バドミントン選手権大会

女子シングルスAクラス 優勝

森永 詩織

(文学部国際文化学科 第一学年)

女子ダブルス 優勝

森永 詩織

(文学部国際文化学科 第一学年)

庄島 舞子

(文学部哲学科 第一学年)

卓球部

京都九大戦

女子シングルス 第二位

山田 貴子

(文学部仏教学科 第三学年)

女子シングルス 第三位

野尻 亜杏

(短期大学部仏教科 第二学年)

女子ダブルス 優勝

野尻 亜杏

(短期大学部仏教科 第二学年)

野尻 亜矢

(短期大学部文化学科 第二学年)



# 本学教員の出版物紹介

Buddhismus und Christentum

vor der Herausforderung der

Sekularisierung

箕浦恵一・門脇 健・

Hans-Martin Barth・Michael Pye

EB-Verlag (ドイツ・ハンブルク) 刊

(二〇〇四 六) 一九五頁

『歎異抄の心を語る』

廣瀬 果 著 方丈堂出版 刊

(二〇〇四 七) 二五六頁

『求道とは何か』

延塚知道 著 文栄堂 刊

(二〇〇四 七) 二〇六頁

『女の手紙』

荒井とみよ・永瀨朋枝 編

佐賀枝夏文 分担執筆

双文社出版 刊(二〇〇四 七)二一九頁

『紀伊山地の霊場と参詣道』

世界遺産登録記念特別展示図録「祈りの道

」吉野・熊野・高野の名宝』

豊島 修 分担執筆 大阪市立美術館 編集

毎日新聞社・NHK発行

(二〇〇四 八) 三五九頁

CD『16/17音平均律 とんでふ!?』

杉山正治 DESAFINADOS 編集

Do-To-Be Music Entertainment 刊

(二〇〇四 八)

書店・レコード店では扱っておりません。

」注文は左記ホームページへ

サウンドマーケットCUE

http://pme.jp/shop/cgi/ace/m\_shop.cgi?keyword=ssugiyama

『保育ライブラリ 保育の現場を知る 施設実習』

民秋 言・安藤和彦・米谷光弘・

中山正雄 編著 大和正克 分担執筆

北大路書房 刊

(二〇〇四 九) 一八二頁

『保育ライブラリ 保育の現場を知る 保  
育所実習』

民秋 言・安藤和彦・米谷光弘・

中西利恵 編著 大和正克 分担執筆

北大路書房 刊

(二〇〇四 九) 一五八頁

黙忍堂文庫2『他力の救済 現在安住』

神戸和磨 著

清澤満之記念会 刊(二〇〇四 十)五五頁

『往生浄土の自覚道』

寺川俊昭 著

法蔵館 刊(二〇〇四 十)三三四頁

『清沢満之と歎異抄』

延塚知道 著

文栄堂 刊(二〇〇四 十)九二頁

『俱舍論の原典研究 智品 定品』

小谷信千代・櫻部建・本庄良文 共著

大蔵出版 刊(二〇〇四 十)四二四頁

『こころの取扱説明書 こころのサブリ

メント編』

佐賀枝夏文 著

三書間文庫 刊(二〇〇四 十一)四七頁

『笑いの本地、笑いの本願 無知の知のこ

こニケーション』

谷 泰 著

以文社 刊(二〇〇四 十一)二五四頁

伝道ブックス49『宗祖親鸞聖人に遇つ』

古田和弘 著

東本願寺出版部 刊

(二〇〇四 十一) 八七頁

『F橋弘次先生古稀記念論集

浄土学佛教学論叢』

F橋弘次先生古稀記念会事務局 編

小川一乘・吉元信行 分担執筆

山喜房佛書林 刊(二〇〇四 十一)

全二巻

## 教育振興資金(専金)について

大谷大学・大谷大学短期大学部では、  
教育研究環境の一層の充実に図るために  
「教育振興資金局」を設置し、募金を行っ  
ています。

二〇〇四年九月十三日から二〇〇五年  
二月十八日までの間に寄付いただきまし  
た方々の芳名は、次のとおりです。

ご協力ありがとうございました。厚く  
お礼申し上げます。

件数 一〇九件

寄付金総額 六、二五六、六五七円

教育振興資金寄付者(敬称略)

青柳 慶英	浅井 秀紀	東 政子
天山 敬信	飯田 徹	池山 眞一
伊藤 理	伊藤 達朗	岩尾 豊文
上園 忠弘	上西 正洋	海老沼博昭
大清水 彰	岡本 圭司	尾 G 丈夫
貝沼 宜徳	笠江 勇	桂 博志
金子 達美	神原 一男	唐川 光世
菊池 円	木南 昭隆	清澤 義彰
清澤 a	楠 秀磨	小荒 和利
越谷 彰元	後藤 尊	後藤 了昭
酒井 了	坂本 稔	相良 義則
佐々木五六	佐野 俊導	佐用裕美子
静谷 博雄	島 仲	島津 知道
鳥野 慶生	杉森 保	関 正道
F岡 健次	F橋 俊信	竹鳥 正弘
竹部 俊恵	谷野 正彦	環 文隆
田村 常晃	千葉 茂	塚寄 智
傳 敬男	堤 源美	綱本 奉弘
手嶋 紀生	堂浦 秀高	豊田 等流
永井 俊男	中居 詳往	中濱 隆
中藤 講	名和 正典	西假屋政昭
野田 勇	西野 富雄	西村 弘作
林 信伊	畑中 千年	林 千ヤ子
姫路 賢彰	日野 大信	日野 泰和
	平井 清志	平塚 練三

## 2005年度前期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では、学校教育修了後も学び続けたいという方々のために、さまざまな講座の展開を予定しております。ぜひ、この機会に再度本学の“学び”に触れてみませんか。  
お問い合わせ・お申し込みは「教育研究支援課」までお願いいたします。  
なお、以下の講座はすべて本学会会場です。

### 紫 明 講 座

1	テーマ	霊場巡礼と宗教者 西国巡礼の歴史と巡礼行者
	担当講師	本学教授 豊島 修
	開講日	5月9日・16日・23日(いずれも月)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	3,000円
	申込締切	4月25日(月)

2	テーマ	霊場巡礼と宗教者 絵画で解く熊野比丘尼
	担当講師	本学非常勤講師 根井 浄
	開講日	6月6日・13日・20日(いずれも月)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	3,000円
	申込締切	5月30日(月)

3	テーマ	こころの取扱説明書
	担当講師	本学教授 佐賀枝 夏文
	開講日	5月12日・19日・26日(いずれも木)
	開講時間	14:30～16:00
	受講料	3,000円
	申込締切	4月25日(月)

4	テーマ	「愚釈親鸞」の名告りの意義
	担当講師	本学教授 延塚 知道
	開講日	7月13日・20日・27日(いずれも水)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	3,000円
	申込締切	7月6日(水)

5	テーマ	現代のフランス文化を動詞から考える 「語る」「愛する」「欲望する」
	担当講師	本学助教授 番場 寛
	開講日	7月4日・11日・25日(いずれも月)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	3,000円
	申込締切	6月27日(月)

6	テーマ	モンゴル歴史探案・入門編 チングスハンの墓はどこに？
	担当講師	本学助教授 松川 節
	開講日	7月1日・8日・15日(いずれも金)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	3,000円
	申込締切	6月24日(金)

### 開 放 セ ミ ナ ー

1	テーマ	いろは書く子のあへなくも ちりぬるいのちぜいもなや 『菅原伝授手習鑑』の世界にあそぶ
	担当講師	本学教授 沙加戸 弘
	開講日	5月12日・19日・26日、6月9日・16日・23日(いずれも木)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	6,000円
	申込締切	4月25日(月)

2	テーマ	続 人間開華の旅 『華厳経』のこころ
	担当講師	本学名誉教授 鍵本 良敬(テキスト『人間開華の旅 華厳経のこころ』)
	開講日	5月18日・25日、6月8日・15日・29日、7月6日(いずれも水)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	7,500円(テキストをお持ちの方は、6,000円)
	申込締切	5月11日(水)

3	テーマ	唯識説を概観する 弥勒・無着・世親
	担当講師	本学教授 小谷 信千代
	開講日	6月30日、7月7日・14日・21日・28日、8月4日(いずれも木)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	6,000円
	申込締切	6月23日(木)

4	テーマ	京の暦文化
	担当講師	本学教授 木場 明志
	開講日	6月7日・14日・21日・28日、7月5日・12日・19日(いずれも火)
	開講時間	17:50～19:20
	受講料	7,000円
	申込締切	5月31日(火)

#### 【申し込み方法】

各講座とも、ハガキ、FAX、Eメールにて、講座名、氏名(フリガナ)、年齢、性別、職業、郵便番号、住所、電話番号を明記のうえ、下記までお申し込みください。

#### 【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 TEL:075-411-8161(直通) FAX:075-411-8162

E mail [opensemi@sec.otani.ac.jp](mailto:opensemi@sec.otani.ac.jp)

\*講座名は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。



平野 正樹  
福田 明夫  
藤原 回向  
松本 増男  
三橋 勇二  
宮井 孝  
安田 雅史  
山元 篤男  
山元 孝平  
山元 健二  
山岡 健  
C 岡 健  
和夫  
義基 賢  
昭和37年大谷大学入学同期会赤レンガの会  
真宗大谷派福正寺

廣瀬 清志  
福永 照慈  
前田 尚哉  
J 鍋 義真  
湊 長博  
宮山 利信  
森口 達  
山本 健一  
山本 健二  
山本 健  
矢守 山鳥  
葎仲 山鳥  
秀之 哲夫

福間 幸三  
福井 幸三  
松本 政枝  
馬淵 克一  
美馬 博幸  
村上 祐d  
森本 義幸  
山鳥 義幸  
矢守 哲夫



大谷大学古田ゼミ同窓会「浄影会」(2004.8.7)  
当日は雷鳴とどろく中でしたが、今年も古田先生を囲んで賑やかに同窓会を催すことができました。来年は先生ご在住の九州で開催することを計画しています。ゼミ同窓生皆さんのご参加をお待ちしております。

# 同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

## 恩師を囲んで



大谷大学剣道部講武会総会(2004.8.21)  
毎年夏一回、先輩と現役後輩と合同の総会が持たれる。道場での対抗試合は、今年は後輩現役組の勝利となった。写真撮影の後、京都駅新都ホテルでの懇親会は、先輩後輩打ちとけての盛会であった。(平成16年秋)



渡辺ゼミ昭和60年卒業生同窓会(2004.8.14)  
本年も「渡辺ゼミ昭和60年卒業生同窓会」を、8月14日に開催いたしました。当日は8名の参加をみました。来年は卒業20年を迎えるので、より盛大な会を企画しようと考えております。



大谷大学短期大学部仏教科・国文科昭和42年度卒業生同期会  
(2004.8.28~29)  
8月28日尋源講堂にて物故者追弔法要の後、木屋町鶴清にて懇親会。2年後の還暦の年に再会を約束し、翌朝解散。



昭和41年度育英学寮在寮生第4回同期会(2004.8.22~23)  
3年に1度の同期会を今回は札幌にて集いました。寮監の片野先生は御法務で欠席でしたが、全国から15名(内夫人同伴3名)の仲間が札幌・すすきのの夜を楽しみました。次回3年後(還暦)の新潟での再々会を約束し合い、散会したことです。



赤レンガの会『木村宣彰氏大谷大学長就任を祝い励ます会』  
(2004.9.9~10)  
赤レンガの講堂、木造校舎、旧洗心寮の木造クラブハウス等、今はその面影もなく、語り合う友の心はその頃にタイムスリップして、木村学長も学生の顔に戻ったようです。



三五会(昭和35年3月短期大学部卒業生同期会)(2004.8.30)  
短期大学部を昭和35年に卒業し、会名も「三五会」として集っています。昨年8月末には母校施設の見学、お仏間での追悼会も勤めさせていただきました。坊主様も一緒に参加され、今年は新潟・佐渡を計画。三五会員集まれ!!





2004年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会  
(2004.9.11～12)  
京都ガーデンパレスで、本会名誉顧問の片野道雄先生、顧問の三木彰円先生のご来賓をいただき総会・懇親会を開催いたしました。総会では、役員改選を行い後援会長に築山昇道氏を選任。懇親会では主将に後援費を贈呈し、その後出席会員の近況報告。先輩・後輩とともに白球を追い続けた学生時代にタイムスリップ。時間の経つのを忘れ、あちこちに歓談の輪が広がり現役諸君との交流も深まり、会の終りに寮歌を斉唱いたしました。我が谷大卓球部の更なる発展を願い、次回総会開催日の2005.9.10(土)に元気な姿で再会できるよう念じて散会しました。

98年度名畑ゼミ“わきみず”同窓会(2004.9.19～20)  
名畑先生の御自坊へ、卒業後5年ぶりに全員集合。みんな元気に変わっておらず、思い出話に花が咲きます。学生時代のゼミの時間に戻ったような、ほんの束の間の楽しいひとときでした。来年も是非集まりましょう。



大谷大学短期大学部仏教科昭和54年卒業生同期会(2004.9.26)  
古田和弘先生にお越しいただいた四半世紀ぶりの同期会の会場は、身も心も中年となった30名の昔の学生で、好き勝手にまとまりなく、騒がしくて楽しかった当時の短期仏教科研究室のようでした。



昭和52年卒短期大学部国文科(井口クラス)同期会(2004.9.26)  
9年ぶりの同窓会で、楽しいひとときを過ごせました。一人ずつの近況報告で、それぞれが互いに人生を学び合えた語らいに大いに華が咲きました。次回に向けてさらなる自分磨きを約束しあいました。



2002年度卒業松川ゼミ同期会(2004.10.2)  
半年ぶりの同窓会は恒例?のカラオケで大盛況。今回はクラスの半数の参加者が集まり、懐かしい話や近況報告に花が咲きました! 次回はもっと大人数で集まれたら良いですね(^.^)



混声合唱団OB総会(2004.9.26)  
OB同士の親睦と現役への援助協力を目的として会を創設して23年。会員も300人を超えました。毎年総会を開き、現役との交流も深めています。





直心行射会・OB総会・懇親会(2004.10.17)  
 鷺野暁師範最期の直心行射会となりました。「世界への正しい法を発信する源となつてほしい」という御遺訓を、現役・OB共々に肝に銘じました。



平成11年卒業宮Tゼミ同期会(2004.11.13)  
 11月13日に宮G先生を囲んで同窓会を開催。それぞれの近況や思い出話に花が咲き、楽しいひとときを過ごすことができました。



1998年卒業須藤ゼミ同窓会(2004.10.9~10)  
 前日からの台風が心配でしたが、3回目の同窓会を無事に開催出来ました。今年は10月に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

2000年入学木越クラス同期会(2004.9.25)  
 大阪梅田にて2000年入学木越クラス同期会を開いた。卒業後の約半年間でそれぞれの世界の広がりを感じました。場所や時間の都合により近畿圏内の人が中心でしたが、今回は参加できなかった人も交えて騒ぎたいです。



尺八部・箏曲部 OB・OG合同演奏会(2004.11.27)  
 11月27日(土)講堂において尺八部・箏曲部OB・OG合同演奏会が開催され、その後京都ガーデンホテルにて懇親会の場をもちました。校友センターの名簿を元に呼びかけましたところ、卒業生・現役約60名が一堂に会しました。演奏曲も10曲で、最終曲は渡辺顯信先生に指揮をいただきました。全てがなつかしく、素晴らしい演奏で、お客さんをもっと呼びかければと反省しました。一日があつという間に過ぎてしまいました。次回は2年後、金沢あたりでという計画です。ご案内が届かなかつた部友の方、校友センターへ届け出てください。ご連絡さしあげます。

2004年矢野ゼミ卒業生同窓会(2004.12.18)  
 久しぶりに、みんなで集まれて、とても楽しい時間を過ごせました。これから、集まる機会を定期的に設けていきたいです。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2004. 8. 7 (土)	大谷大学古田ゼミ同窓会「浄影会」
2004. 8.14 (土)	渡辺ゼミ昭和60年卒業生同窓会
2004. 8.21 (土)	大谷大学剣道部講武会総会
2004. 8.22 (日)	昭和41年度育英学寮在寮生第4回同期会
2004. 8.28 (土)	大谷大学短期大学部仏教科・国文科昭和42年度卒業生同期会
2004. 8.30 (月)	三五会(昭和35年3月短期大学部卒業生同期会)
2004. 9. 9 (木)	赤レンガの会『木村宣彰氏大谷大学学長就任を祝い励ます会』
2004. 9.11 (土)	2004年度大谷大学卓球部後援会総会・懇親会
2004. 9.19 (日)	98年度名畑ゼミ“わきみず”同窓会
2004. 9.25 (土)	2000年入学木越クラス同期会
2004. 9.26 (日)	昭和52年卒短期大学部国文科(井口クラス)同期会
2004. 9.26 (日)	大谷大学短期大学部仏教科昭和54年卒業生同期会
2004. 9.26 (日)	混声合唱団OB総会
2004.10. 2 (土)	2002年度卒業松川ゼミ同期会
2004.10. 9 (土)	1998年卒業須藤ゼミ同窓会
2004.10. 9 (土)	文学部・大学院仏教文化 国文学分野同窓会
2004.10.17 (日)	直心行射会・OB総会・懇親会
2004.11.13 (土)	平成11年卒業宮Tゼミ同期会
2004.11.26 (金)	ギター部OB演奏会
2004.11.27 (土)	尺八部・箏曲部 OB・OG合同演奏会
2004.12. 4 (土)	第3回86年入学大谷大学体育会同期会
2004.12.18 (土)	2004年矢野ゼミ卒業生同窓会
2004.12.19 (日)	2001年卒業短期仏教科AB合同クラス会
2005. 1. 8 (土)	ワデル先生を囲んで(1998年度卒業生同期会)
2005. 2. 1 (火)	大谷大学(文学部・短期大学部)昭和31年入学者同期会
2005. 2. 7 (月)	WADDELL先生の定年退官をお祝いする会(ワデルゼミ修士課程修了生)



第3回86年入学大谷大学体育会同期会(2004.12.4)  
ピンボケで失礼。2004年12月4日懐かしの天気に開催。総勢16名。6年ぶりでしたが...楽しかった。午前3時まで遊んでしまいました。久々に熱い人間関係にふれましたな。次回、40歳を迎えた時に開きます。



ワデル先生を囲んで(1998年度卒業生同期会)(2005.1.8)  
98年度ワデルゼミ卒業生で細やかながらワデル先生のご退職をお祝いました。学生時代の思い出話や近況報告に時の経つのも忘れて楽しいひとときを過ごしました。私達がワデル先生最後のゼミ生であったことを光栄に思います。またの再会を約束して...



大谷大学(文学部・短期大学部)昭和31年入学者同期会(2005.2.1)  
久しぶりに同期会が開催され31名が出席した。49年前の紅顔の美少年達は、孫を語る好好爺となるも、気力は少しも変わらず。往時を懐かしみつつ、ご宗門に対する熱き思いを語り合いながら、元気だまた会おうと散会した。



# 通信

## 「罪ほろぼし」

佐々木 憲雄

(平成六年修士課程修了・仏教学専攻)

新潟県中越地震から半月足らず、未だ余震に揺れる三条別院では、お取越が厳修されていた。満堂の参詣者の中には、避難所から招待された山古志のご門徒たちもいる。ご法話に立たれたのは小川一乗師。懐かしい担任の語り口だが、法話に遇うのは初めてだ。胸が弾んだ。

インド仏教の小川ゼミでは専ら宴会担当で、普段は一研よりフオーク研が根城だった。高校デビューのパートはドラムやがて学内の仲間と組んだ「ヌボ」がコンテストに入賞すると、バンドはもう趣味ではすまなくなっていた。「プロ」を夢見て、親に内緒で、担任に休学届を突



右端が筆者  
きつめた。

だが、夢の後の面倒も全部見てくださった担任から、五年後に出演依頼が来るとは誰が予想したろう。「ヌボ」を在学生に紹介する企

画だという。「面白そつやな」私の不安をよそに、仲間は再び盛り上がった。二〇〇〇年十二月五日、演奏は拙く、企画は失敗と思われたけれど、フオーク研の皆さんをはじめ、講堂に集った方々からは、温かい、幸せな時間をいただいた。

一昨年、住職を継いだ。かつての華々しさは微塵もないが、縁あってルーマニアの人が伴侶となった。彼女も得度し、今では法事も勤める。生活習慣や信仰が国境を超える歩みは、格闘の連続だ。しかし、教えを阻む国境は、誰もが持つていると感じ始めている。節譜の簡単な動行集を作り、参加型の法要や、ホームペー

ジにも取り組む。模索はまだ始まったばかりだ。大学は現在、講義のストーリーミング配信を試みている。大変意義深いことだ。谷大の学びがより開かれ、教えが国境を超えて、世界中に共有されることを歓迎する。

一方、恩師は昨年ついに「退職」。「自坊にいる長男に、そろそろ罪滅ぼしをしないと」法座を終えた控室では、父親の顔を覗かせた。迷惑ばかりかけた私の罪滅ぼしは、何もできぬままだった。

(真宗大谷派光善寺住職)

**結婚**  
おめでとうございます  
幸せなご家庭を築かれることを  
念じ申しあげます。  
(内は最終卒業・修了年 敬称略  
同窓会本部管理)

尋源講堂にて結婚式を挙行  
昨年十月二十三日(土)、本学同窓生の山崎悌廣さん(二〇〇三年文学部卒業)と足立真代さん(二〇〇三年文学部卒業)の婚儀が仏前にて執り行われました。



- |            |            |
|------------|------------|
| 草間 朋哉 H16文 | 梅田 瑠衣 H13文 |
| 崖 超 H13文   | 和田 亮子 H12文 |
| 前田 佳久 H14文 | 福井寿美子 H14文 |
| 山崎 悌廣 H15文 | 足立 真代 H15文 |
| 鷲嶺 彰宏 H13修 | 立木 尚美      |
| 中島 康貴 H11文 | 野間さつき      |
| 堀井 建吾      | 飯嶋 永子 H7文  |
| 宮田 素樹 H11文 | 御牧 香耶 H12文 |
| 竹内 敏晃 H15文 | 大石 沙織 H15文 |

# 窓 同

## 「これが国際協力じゃないかしら？」

吉元由香

(平成九年文学部国際文化学科卒業)

そもそも本学入学の動機は、現在私が活動するカンボジアという国をもっと知りたいことからでした。

ところが本学では仏教分野研究が主流であり、当初の私の思惑とはずれていたことに正直落胆したのですが、あらゆる分野のカンボジアを知りたかった私はゼミ担任・吉元信行教授をはじめ多くの先生方へのご迷惑を顧みず、今日までひたすらに己の研究を追求し続けて参りました。

また三年ほど前よりNGO活動を開始し、続いてより規模の大きな国際協力組織にて現地活動をして参りました。

この国は、東南アジアの中でも後発開発途上国と世界で位置付けられています。隣国タイやベトナムのような急進的経済発展から二歩も三歩も出遅れています。しかし、この国も負けじと物凄い勢いでその成長に追いつこうとしています。



確かにカンボジア国民全ての貧困解消にはまだまだ至っておりません。その一方で国民自身が自立の力を持っているのに、いつまでも国際援助に頼り続けているのは自らの足で立つて歩くことも一生できないことでしょう。

物乞いをする人々を見て、「かわいそう……」と単に同情して物資・資金を提供するだけが賢い国際支援でしょうか。よるけながらも立とうとしている者に「直ぐ手を貸してあげるからね!」と言って、本人が自らの力で立とうとしている場を助けてしまったら、その人々は二度と自分の力を出そうとはしないでしょう。放つておいても「誰か」が助けてくれることを知ってしまうからです。これが理想的な国際協力の姿でしょうか？

カンボジアで紛争が勃発し、多くの難民流出を招いた出来事が過去にあったことは事実です。罪もない人々の命を救うため、その当時は一斉に多数の国際支援が入りました。

平和が戻って十年が経つ現在、この国でも急速な勢いで展開する国際化の中、自分でしっかりと歩くための足場を見失わせないことが、カンボジアをはじめ開発途上諸国に必要とされている支援であり、真の国際協力であると思う今日この頃です。

(日本福祉大学大学院博士前期課程  
国際社会開発研究科生)

## 敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、  
謹んで哀悼の意を表します。

(内は最終卒業、修了年 敬称略  
同窓会本部事務局)

西 康華	短期(S52)	H14.9.10
野 功	文学部(S28)	H16.8.10
溝 精	文学部(S39)	H16.8.11
藤 彰	文学部(S23)	H16.9.11
不破 証	文学部(S27)	H16.9.6
青柳 大	大専門(S23)	H16.9.9
藤本 時	修士(S39)	H16.9.12
福芳 昌	短期(S32)	H16.9.22
佐藤 隆	短期(S30)	H16.10.4
伴 澄	大専門(S9)	H16.10.23
斧山 義	大専門(S7)	H16.12.17
宮山 肅	大専門(S8)	H17.1.6
深田 虎	博士(S59)	H17.1.25





「西谷先生」

私は今から四十年前米国からやってきました。最近その歳月を振り返ってみると、私の人生を大きく変えた不思議な縁を感じざるをえません。私は、来日する前から三人の先生によって導かれていたと考えるようになりました。その三人とはオエロウ先生、鈴木大拙先生と西谷啓治先生。三人のうち一人でもその先生との出会いがなかったら、たぶん私は来日しなかったでしょう。また日本の仏教文化にそれほど関心を持つこともなかったでしょう。

ブライス先生の日本文化や俳句に関する素晴らしい著作に巡り会ったことにより、一九六五年に来日する決心をして、鈴木先生との接点 わずかではあっても、が可能となりました。それから一九六七年ごろ、私にとつて決定的とも言つべき、西谷先生との出会いが、「イースタン・ブディスト」の仕事を引き受けた時、実現したのでした。

鈴木先生は一九二三年に創刊した英文仏教雑誌「イースタン・ブディスト」を一九三九年まで、十六年間、編集されましたが、一九六三年にニュー・シリーズが復刊した年、西谷先生に編集責任者を依頼されました。私がその編集の手伝いを始めたのは一九六七年ごろ、来日してから二年後のことでした。それから二十余年間、西谷先生のもとで編集の仕事などを続けました。

年二回発行していた雑誌（約三〇〇頁分）の内容の大部分は、日本の代表的な仏教思想家の著作からなっていたため、大変難しい英訳の作業が年中行われていました。編集の仕事に熱心に取り組んでおられた先生と一緒に

仕事をするので、頻りに先生と接することになりました。締め切りが近くなると、ほとんど毎晩のように吉田山の先生の御宅にお邪魔することになりました。主な仕事はその号の英訳文、私自身のものをも含め、を校正し、たまには全面的にやり直すことも含む仕事でした。

先生の御宅での仕事は、午後三時ごろから夜遅くまで続くことが通例で、深夜二時ごろまでかかることもめずらしくありませんでした。仕事に関する先生の厳しい姿勢を想うと私の論議は、ある弟子が盤珠和尚について話した論語の一節が浮かんできます……「君子は仕えやすいが、よるこぼれにくいものだ」と。しかし、けつして仕事ばかりではありませんでした。英文学、そのほかの話題もよく出て、そういう楽しい話題を私に話してくださったのです。先生の good talk は、とにかく面白いものでした。

そういう仕事は私がかたくたくなるまで続いたものでした。私の住んでいたところは、先生の御宅から吉田山をはさんで丁度向こう側になっていました。夜中に帰ろうとすると先生はたびたび、「最近山の方は物騒になっている」などと言って、吉田山の頂上まで一緒に歩いてくださいました。

先生の御宅でのこうした日々から、学問的なことや仕事に対する姿勢を多く学んだことは言うまでもありませんが、先生の醫咳に親しく接したことから、先生のなんともいえない温かさやユーモアを、そしてそれ以上に計り知れないなにかを自然な形で受けたように思います。

大谷大学教授・英米文化、日本仏教文化

ノーマン ウェル

表紙絵  
「未来」

116.8 x 80.3 cm 二〇〇三年作

私達は未来にむけて、希望を持って、光の恩恵を浴びて生きてゆきたいものです。しかし、いまだにテロがあり、人が人に対しての暴力は止みそうにありません。

今年に入りましてから、滅多にテレビを見ない私が、「地球進化 四十六億年・人類への旅」という何回かの特集番組を見ました。四十六億年前から、地球上の生物が現在人間に進化していくさまを、発掘からの検証とコンピュータ・グラフィックスを駆使した映像で解説したものでした。その気の遠くなるようなながい歴史を見ますと、一つの地球上での人間同士の殺し合いや、いがみ合いがいかにかちつばけで良くないことであるかを考えさせられました。

私達は過去と未来の間の現在にいます。最も大切なことはこれから先の未来でありますが、過去の歴史を検証していかなければ、未来に対しての智慧がつきません。歴史を学ぶ必要性と醍醐味はこのことにあると思います。

さて私達は意外にも光の徳というものに気がついておりません。この功德を感じるものがなかったならば未来は暗くなってしまうです。

釈尊は阿弥陀如来の徳を讃歎されて、如来には十二の光があると申されております。そして如来のこのような十二の徳光をあげられての讃歎は、釈尊は昼夜一劫の間説き続けられても、その徳は説き尽くすことは出来ないと申されています。私達はこの光の徳というものを感ぜさせていたばかりつけを大谷大学で学べたことを誇りに思いますし、いつまでも無盡燈をあかあかと灯し続けたいものです。

畠中光夏(昭和四十五年文学部卒)

大谷大学非常勤講師

京都造形芸術大学教授

2005年3月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部  
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内  
電話(075)411-8124 FAX(075)411-8157  
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみづから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。